



〒891-1393 鹿児島市宮之浦町862
TEL:099 - 294 - 2311
FAX:099 - 294 - 2309
http://www.edu.pref.kagoshima.jp/

かごしま教育ホットライン24

0120-783-574 (フリーダイヤル)
099-294-2200 (直通)
0570-0-78310 (全国統一ダイヤル)

大原台

平成26年度 調査研究発表会 (御案内)



期日：平成27年1月30日(金)
時間：9:30～16:25
場所：鹿児島県総合教育センター
(大原台講堂 外)

平成25年度調査研究発表会全体会の様子

9:00 9:30 11:50 12:50 16:25

全体会		分科会 (8分科会)	
受付	<ul style="list-style-type: none"> ○ 調査研究の概要 ○ 研究発表Ⅰ 学習内容の関連を踏まえた「判断基準」に基づく指導と評価についての発表 ○ 研究発表Ⅱ 「学校楽しいーと」等を活用した不登校の未然防止についての発表 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 研究発表 ○ 事例発表 ○ ワークショップ型研究協議 	閉会行事
開会行事	昼食休憩		



共に学び合うワークショップ型研究協議 (平成25年度開催の分科会から)

鹿児島県総合教育センター Webページトップ画面

一般の方、県外から参加される方はこちらから参加申込書をダウンロードすることができます。

鹿児島県内の学校からの申込みは、各学校で取りまとめ、市町村教育委員会、教育事務所を通じて提出してください。なお、鹿児島市内の学校は鹿児島市教育委員会を通じて、県立学校は直接、県総合教育センターへ提出してください。
(平成26年10月20日付け鹿教セ第170号を参照)

調査研究発表会に関する問合せ先

鹿児島県総合教育センター 企画課
TEL 099-294-2312
FAX 099-294-2374
E-mail kikaku@edu.pref.kagoshima.jp

研究発表Ⅰ

<研究主題>

学習内容の関連を踏まえた思考力・判断力・表現力の育成に関する研究
～「判断基準」に基づく指導と評価を通して～

知識基盤社会を生きていく上で必要な思考力・判断力・表現力の継続的な育成について、見通しを立てたり振り返ったりする学習などの視点から学習内容の関連を図るとともに、これまでの「判断基準」に基づく指導と評価の研究を生かして実践してきたことを発表します。

(教科教育研修課)

研究発表Ⅱ

<研究主題>

不登校の未然防止と支援の在り方に関する研究
～「学校楽しいーと」等を活用した児童生徒への対応～

学校生活に関する児童生徒（小・中・高）への意識調査、不登校対応に関する教職員への実態調査を基に「学校楽しいーと」等を活用した不登校の未然防止や初期対応のモデルについて発表します。

(教育相談課)

第1分科会	第2分科会	第3分科会	第4分科会	第5分科会
国語科	社会・地歴・公民科	算数・数学科	理科	外国語活動, 外国語科

午前中の発表に引き続き、各教科に分かれて、研究発表・事例発表・協議を行います。

第6分科会

情報教育

【研究主題】

「情報活用能力の育成に関する研究Ⅱ
～言語活動の充実に資するICT活用の在り方～」

学習活動における「まとめる(表現・処理・創造)」、「いかす(発信・伝達)」の場面を中心に、言語活動の充実を見据えた児童生徒のICT活用により、情報活用能力を育成する方策等について協議します。

第7分科会

特別支援教育

【研究主題】

「特別支援学校における一貫性・系統性のある指導の在り方に関する研究Ⅱ
～知的障害のある児童生徒の指導目標の設定及び指導内容の選択・組織の工夫～」

知的障害のある児童生徒の一貫性・系統性のある指導について、教育課程の現状と課題を明らかにし、さらに指導目標の設定の工夫について協議します。

第8分科会

教育相談

午前中の発表に引き続き、研究発表・事例発表・協議を行います。



長期研修募集

高等学校情報教育継続研修募集

- 1 長期研修の趣旨
各教科等に関する教育実践上の課題を踏まえた研究主題について研究に取り組みせるとともに、教育全般について研修等を実施し、教員としての資質を高め、本県教育の充実・発展に寄与する人材の育成を図る。
- 2 研修期間
平成27年4月1日から平成28年3月31日まで(1年間)
- 3 募集人員
11人(小学校5人, 中学校3人, 高等学校2人, 特別支援学校1人)

学び多き一年間で多くの応募を!

- 1 継続研修の趣旨
急速に進展する情報化に対応した情報教育を推進するために、通年により継続的に専門的研修を行い、最新の情報や技術の習得を図ることにより、情報教育の充実に資する。
- 2 研修期間
平成27年5月から平成28年2月までの期間における金曜日(年間20回の実施)
- 3 募集人員
11人(県立・市立)

研究提携校研究公開

研究・実践の成果を生かし、参加された先生方と共に授業力の向上について考えました。

奄美市立宇宿小学校

平成26年10月31日(金)

研究主題

「書くこと」の力を伸ばす学年別複式国語科学習指導
～複式学級における重点的・段階的な「書くこと」の指導の工夫～

公開当日の様子



多くの参加者のもとに開かれた全体会



調べたことをワークシートにまとめて整理する3年生



分かりやすい新聞の割り付けをみんなで考える4年生



二つの部会に分かれ熱心な協議が行われた研究協議

鹿児島市立山下小学校

平成26年11月14日(金)

研究主題

問いをもち、主体的に学ぶ子どもを育てる授業づくり

公開当日の様子



慶應義塾大学鹿毛教授による講演



電子黒板を見ながら「自分の問い」をもつ子供たち



タブレット端末を用いて思考する子供たち



活発な意見交換が行われた各分科会における研究協議

鹿児島市立吉田南中学校

平成26年10月17日(金)

研究主題

「思考力・判断力・表現力」を育成する学習指導
～「判断基準」の設定による指導法の改善Ⅱ～

公開当日の様子



鹿児島大学高谷准教授による演習を交えた講演



タブレットを見ながら表現方法を話し合った体育の授業



心臓の血液の循環をモデルで確認し予想を立てた理科の授業



ワークショップ型研究協議で出された内容をグループで発表

鹿児島県立松陽高等学校

平成26年11月5日(水)

研究主題

個々の生徒の学力向上と進路実現を目指す授業改善
～基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用を図る学習指導～

公開当日の様子



全体会における研究概要の説明



付箋に一人一人が考えを書き出した情報モラルの授業



グループ内で考えたことを確かめ合った英語の授業



各過程における改善策等をワークショップ型で出合った分科会

鹿児島県立出水養護学校

平成27年度に実施予定
(隔年実施)



授業への具現化を目指した
具体的な資料の数々

指導資料の御案内

(10月発行)

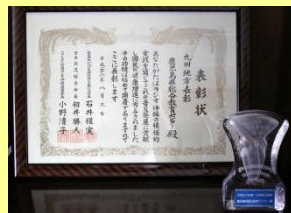
平成26年度 ラジオ体操 九州地方表彰 受賞

当教育センターでは、毎朝8:25にさわやかな朝日の下でラジオ体操を行っています。このような長年の取組が認められ、この度、「平成26年度ラジオ体操九州地方表彰」を受賞いたしました。

皆様も、研修等で当教育センターへお越しの際には、御一緒にラジオ体操をいかがでしょうか。



さわやかな空気に包まれ、色鮮やかな芝生でのラジオ体操。ここから素敵な一日が始まります。



表彰状と盾をいただきました。

教科等 教科等番号	標 題	対象校種
国語 第131号	鹿児島学習定着度調査を生かした小学校国語科の指導法改善	★ 小・特支
社会 第125号	鹿児島学習定着度調査を生かした小学校社会科の授業改善	★ 小・特支
算数 第138号	鹿児島学習定着度調査を生かした算数科の指導法改善	★ 小・特支
数学 第139号	「データの分析」における言語活動を生かした指導の工夫	高・特支
理科 第297号	鹿児島学習定着度調査を生かした小学校理科の指導法改善 －科学的な思考力・表現力を育成する指導の工夫－	★ 小・特支
理科 第298号	鹿児島学習定着度調査を生かした中学校理科の指導法改善	★ 中・特支
理科 第299号	中学校、高等学校における放射線に関する学習指導のポイント	中・高・特支
美術、芸術 (美術) 第41号	視覚的なプレゼンテーション能力を育成するための学習指導の在り方	中・高・特支
外国語 (英語) 第76号	「英語表現Ⅰ」におけるコミュニケーションを意識した指導の工夫	高・特支
外国語 (英語) 第77号	読みを深めるための指導 －発問の工夫を中心に－	高・特支
幼児教育 第17号	言葉による「伝え合い」を育む教師の関わり	幼・小・特支
情報教育 第132号	学校等での著作物の利用について	幼・小・中・高・特支
情報教育 第133号	情報モラルの指導 －インターネット・リテラシーを育むために－	小・中・高・特支
特別支援教育 第176号	課題分析を活用した個別の指導計画に基づく指導	幼・小・中・特支
特別支援教育 第177号	幼児児童生徒の気になる行動に対する指導・支援 －応用行動分析の視点から－	幼・小・中・高・特支
特別支援教育 第178号	自閉症・情緒障害特別支援学級における朝の会活動について	幼・小・中・特支
教育相談 第133号	児童生徒の心情を引き出す教育相談の工夫 －すごろくトークの活用－	小・中・高・特支
生徒指導 第66号	言葉でいじめる児童生徒への指導の在り方 －ポジション・チェンジのワークを活用して－	小・中・高・特支

★ 鹿児島学習定着度調査を取り上げた指導資料

教科等 教科等番号	標 題
国語 第129号	「鹿児島学習定着度調査」を生かした指導法改善 －思考力・判断力・表現力の育成を目指して－
数学 第137号	「資料の活用」に関する学習指導法の工夫 －鹿児島学習定着度調査等を踏まえて－
外国語 (英語) 第75号	鹿児島学習定着度調査を生かした「思考・表現」に関する指導法改善 －「外国語理解の能力」、「外国語表現の能力」に関する視点から－



その他の 鹿児島学習定着度調査 関連指導資料

詳しくは、当教育センターWebページを御覧ください。

「最上のものは将来にある。」このことは、私自身もまだまだ実現できていないが、子供たちが最上のものを目指して、希望と理想を持ち続け、進んでいけるよう、教育に携わる誰もが、子供たちを支え育む存在でありたいと思う。

総合教育センターも、同じように、研修や来所研究・電話等による支援など、「より身近な教育センター」として、県内の学校や教職員をサポートし続けていく存在でありたい。

この言葉のように、花子も過去や現状に満足することなく、最上のものを目指して、更にそれを社会に還元していくという意識で、たゆまない努力を続けていく。

「学校生活を思い出して、あの時代が一番幸せだったと心底感じるなら、この学校の教育が失敗だったと言わなければならない。人生は進歩である。若い時代は準備のときであり、最上のものは過去にあるのではなく、将来にある。旅路の最後まで希望と理想を持ち続け、進んでいく者でありますように。」

ドラマの原案となったのは、村岡花子の孫である村岡恵理さんの「アンのゆりかご 村岡花子の生涯」であるが、その中に中学校の卒業式で、力ナダ人宣教師の校長が花子たちに贈った次のような言葉がある。

これまで、アンに夢中になっても、翻訳者については全く考えたことはなかった。今回のドラマにより、その人生を知ることとなったが、幾多の困難にも、真摯に立ち向かって行く姿は、見る人を勇気付けてくれた。

NHKの連続テレビ小説「花子とアン」が好評のうちに終了した。「赤毛のアン」の翻訳者村岡花子の生涯を描いたものである。



「最上のものは将来にある」

次長兼総務課長 大山 涼子